

# 岡

# 山市のがん対策

～10年のあゆみと  
これから～

生涯で2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる、  
今やがんは国民病と言われています。

すべての人が、がんについて正しい知識をもち、がんを理解し、  
がんと共に生きる時代です。

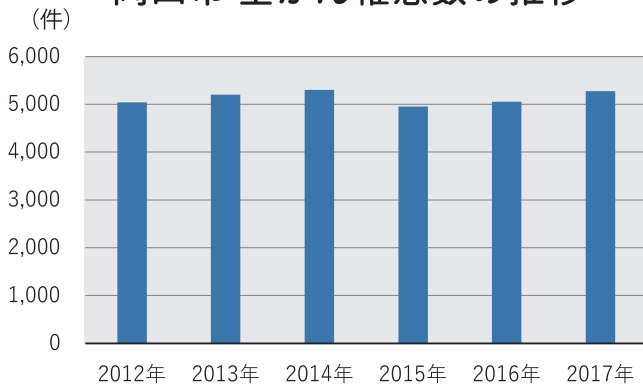


## 岡山市のがん統計

がんになる人

年間約 5,100 人

岡山市 全がん罹患数の推移

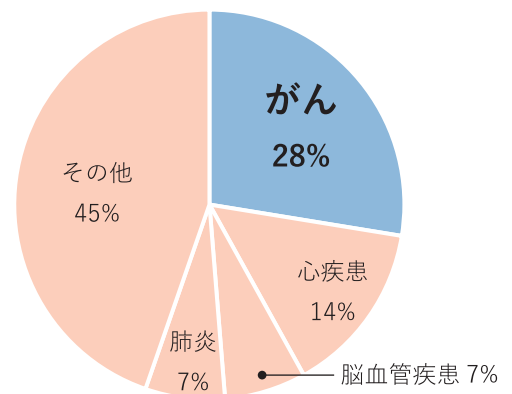


(上皮内がんを除く) 岡山県におけるがん登録より市算出

がんで死亡する人

年間約 1,800 人

岡山市の死亡原因 (2019年)



人口動態統計 2019 より市算出

# 10年のあゆみ

平成23年3月「岡山市がん対策推進条例」制定  
「岡山市がん対策推進委員会」設置

## 岡山市がん対策推進条例とは

### 目的

科学的知見に基づく適切ながん医療をすべての市民が受けられるようにするための総合的な施策を推進し、市民ががん患者となってもお互いに支え合い、安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的とする。

### 責務

#### 保健医療関係者の責務

がんの予防に寄与するとともに、良質・適切ながん医療を行うよう努める。がん患者、家族へ必要とするがん情報を提供する。

#### 市民の責務

がんに関する正しい知識をもち、予防に努める。  
主体的にがん検診を受ける。

#### 市の責務

保健医療関係者、がん患者等の団体と連携し、本市の特性に応じたがん対策施策を策定、実施する。

### がん対策の焦点

がんの予防

早期発見の推進

緩和ケア・在宅医療の推進

がんとの共生

## ○ 10年間の成果と課題

	成 果	課 題
がんの予防	<ul style="list-style-type: none"><li>・中高生を対象に、がん教育を11校延べ2,665人に実施。若い世代のがんに関する理解が進むきっかけとなった</li><li>・禁煙治療費の補助（H29～保険適応）や受動喫煙の害等啓発、喫煙率が低下（H23年18.1%→H29年14.7%※）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民に向け、がんとの共生を含めたがん教育の実施</li><li>・受動喫煙を防ぐ環境整備</li></ul>
早期発見の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・受診勧奨、再勧奨の対象者の拡大や啓発資材の工夫、集団検診の導入等により、乳がん検診受診率が向上</li><li>・精密検査受診率が向上し、5大がん全てで国の許容値（基準となる値）を超えた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・データを活用したがん検診受診率向上に向けたアプローチ</li></ul>
がんとの共生	<ul style="list-style-type: none"><li>・がん相談窓口紹介カードを作成、市内医療機関等へ広く配布</li><li>・がん相談や就労に関する現状把握とともに、関係機関との情報共有を進めた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・がん相談支援や治療と仕事の両立支援に関して、地域住民や働く世代へ啓発</li></ul>
緩和ケア・在宅医療の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・医師会と連携し、地域の実情に合わせた在宅医療体制整備を福市区毎で推進</li><li>・訪問診療支援事業を通じ医療従事者の人材育成、多職種連携を推進</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・在宅医療体制整備の拡大</li></ul>

※健康市民おかやま21第2次中間評価アンケートより

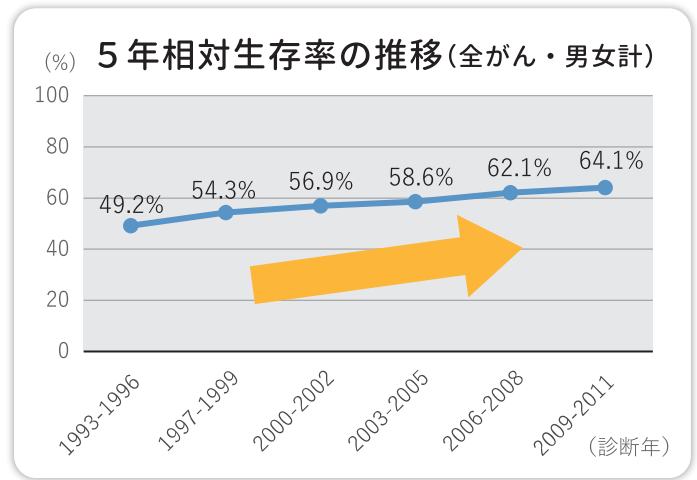
# 現 状 と 今 後

## がんと共に生きる時代へ

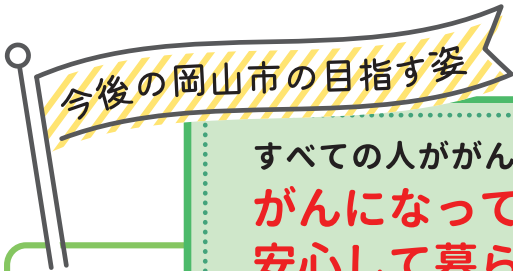
日本では、**2人に1人が一生のうち一度はがんになり、3人に1人ががんで亡くなる**、今やがんは国民病と言われています。岡山市では年間約5,100人ががんになり、亡くなる原因の第1位にもなっています。

人口構成比率の高い団塊世代や団塊ジュニア世代の加齢に伴い、今後5年間で、がんと診断され生活する高齢者や働き盛りの世代が増えていく傾向にあります。右図のとおり、がんの5年生存率は、医療の進歩とともに年々上昇しており、「がん＝死」と捉えられていた時代から、「**がんと共に生きる時代**」へと変化しています。

また、最近では抗がん剤治療、放射線治療等の進歩により、外来通院で治療を行うことが増えています。働き盛りの世代では、外来通院で治療をしながら仕事を継続する人も多くなっています。がんになっても、仕事、学業、出産・育児など、安心して自分らしく過ごしていける環境を実現するためには、患者本人だけでなく、主治医や職場、家族・友人などまわりの理解と協力が不可欠です。



国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」地域がん登録における5年相対生存率より作成

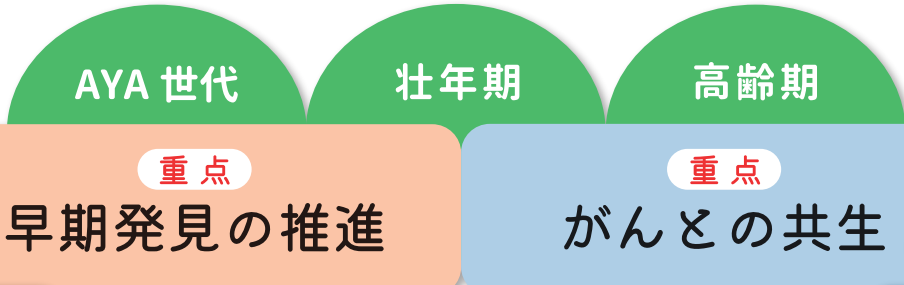


すべての人ががんについて正しい知識を持ち、がんを理解し、**がんになっても互いに支え合い、安心して暮らすことのできる地域社会の実現**



これまでの10年間の成果と現状を踏まえ、岡山市では今後5年のがん対策の方向性として、これまで取り組んできたがん対策の4つの焦点の中でも特に「早期発見の推進」と「がんとの共生」に重点を置いて取り組みます。また、世代ごとに進めるべき対策も異なることから、3つの世代（AYA世代（※）、壮年期、高齢期）に応じたがん対策を進めます。

※AYA世代はAdolescent and Young Adult(思春期と若年成人)の略。15歳～39歳のこと。



働き盛りの世代は特に定期的ながん検診により、がんを早期に発見、早期に治療することで、その後も続く人生のQOLの維持・向上を目指すことができます。

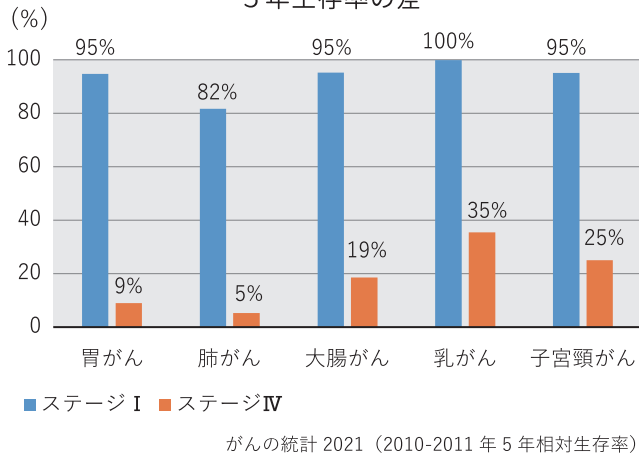
生涯に2人に1人ががんになる時代であり、自分自身のこととして、身近な人のこととして、がんを捉え理解していくことが求められます。

## 重点 早期発見の推進

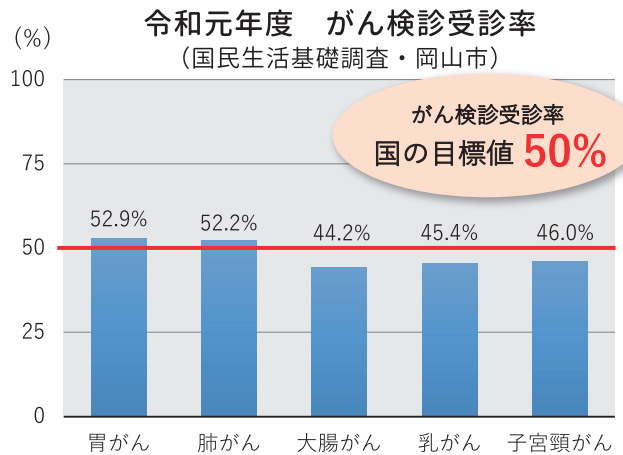
あなた自身のため、そして大切な人のために  
がん検診を受けましょう

がん検診で発見されることが多い早期がん(ステージⅠ)であれば5年生存率は約90%、反対に進行後に発見(ステージⅣ)されたがんの5年生存率は30%を下回ることもあります。早期発見・早期治療につなげるためにも、定期的ながん検診を受けましょう。

### 早期発見(ステージⅠ)と進行後発見(ステージⅣ)の5年生存率の差



がん検診で精密検査を勧められたら、早期がんを発見するチャンスです。必ず精密検査を受けましょう！



持病で通院中の方も、定期的ながん検診は必要です！まずはかかりつけ医に相談を！

### 岡山市のがん検診はどなたでも受けられます

職場でがん検診を受ける機会がない方、パート・アルバイトの方、会社員のご家族の方、退職された方、無職の方などは、ぜひ岡山市が実施するがん検診をご利用ください。

毎年6月～12月、医療機関での個別受診や集団検診等の方法でがん検診を受けることができます。詳しくは6月頃に全戸配布される「けんしんガイド」や、岡山市ホームページをご確認ください。

岡山市けんしん専用ダイヤル ☎ (086)803-1202

## 重点 がんとの共生

仕事をやめる前に、まずは相談しましょう

がんと診断され、退職・廃業した人のうち

がん治療開始前の離職率 56.8%

(平成30年度患者体験調査)

近年のがん検診の普及や医療の進歩により、がんの生存率は向上し、がんは「長く付き合う病気」に変化しています。一方で、身体への負担や仕事への影響を心配して診断直後に自ら退職したり、また、職場の理解・支援体制の不足により、離職に至ってしまう場合があります。そうなる前に、がん労働者と医療機関、職場が連携し、がんを抱える労働者にとって働きやすい環境を整えるため、治療と仕事の両立を支援する仕組みがあります。

詳しくは **治療と仕事の両立支援ナビ** で検索！

明日を拓く

～一人でもかえりまわって～

がん相談窓口

「がん」の不安や悩み  
相談してみませんか

◎相談内容等秘密は厳守しますのでお気軽にご利用ください。

岡山市・岡山市がん対策推進委員会

がん相談窓口紹介カード

患者さん、ご家族や地域の方からのがんに関する相談窓口として、市内7か所のがん相談支援センター(がん診療連携拠点病院等に設置)があります。がんの症状や治療のこと、不安な気持ち、家族や仕事のこと、緩和ケア、治療費や介護等のサービスのこと等、診療の有無に関係なく、どの病院でも無料で相談することができます。

岡山市では「がん相談支援センター」や「患者会」を紹介するカードを作成し、岡山市の各窓口、市内医療機関、薬局等に設置しています。